

年間第 12 主日

2010.6.20

ルカ 9 : 18~24

今日の福音は、「私にとってイエスはどのような方か?」「イエスに従うとはどのようなことか?」という信仰上の根本的な問いを投げかけています。皆さんはどう答えられるでしょうか?

初めに、私の自身の体験をお話しします。12年間会社に勤めていた私には、いくつかの楽しみがありました。その1つは、12年間で6台乗り換えた車です。新入社員の時は、車を持てるだけでうれしかったのですが、段々贅沢になり3台目から外車になりました。修道生活に入る時も手放すのが惜しくて、イエズス会に入った後も、夢の中に車が出てきました。そして、いざ自分の車に乗ろうとしたら、鍵が見当たらないのです。ポケットもカバンの中もどこを探しても見つからない。仕方なく、あきらめてとぼとぼ歩きだす夢を何回か見ました。修道生活に入った後も、しばらくは車への未練や執着が捨てきれませんでした。

さて、車をただ運転することも楽しいですが、私は車の中で“ロザリオの祈り”やアシジのフランシスコの“平和を求める祈り”を唱えるのも好きでした。長距離ドライブでは、何環もロザリオを唱えたものです。忙しかったサラリーマン時代の私にとって車の中は、祈りの空間になっていました。

今日の朗読の最後に、「自分のいのちを救いたいと思う者は、それを失うが、私のために命を失う者は、それを救うのである。」とあります。この箇所は、“平和を求める祈り”の最後の部分、「自分を捨てて死に、永遠の命をいただくのですから」の箇所と重なります。今思えば、愛車を運転しながら、今日の福音箇所を祈っていたことになりそうです。それは、とても不思議なめぐり合わせ、神様の計らいでしょう。何年にもわたって、繰り返すうちに、祈りの言葉が心に浸透して、少こ〜しずつ神様の計画が動き出したように思います。

さて、ここからは皆さんについてのお話しをしたいと思います。イエスは、私たち一人一人に「日々、私に従いなさい」と言われます。「日々」という言葉から、「大きなことをしなさい」と言われているわけでないことが分かります。全財産を捨てるとか、家族と離れるとか、そう言ったことをイエスが毎日私たちに求めているわけではないでしょう。「私に従いなさい」とは「私に倣いなさい」と言い換えられると思います。「日々」の生活の中で自分の憧れるイエス様の姿、好きなイエス様の姿に倣うことが、「イエスに従う」ことだと思います。

皆さんは、それぞれにイエス様のこんな所が好き、できることなら私もそうになりたい、という憧れをもっていると思います。先週朗読された“罪深い女に限りないゆるしを与えるイエスの姿”かもしれません。“99匹を置いてでも迷える

1匹の子羊を探しまわるイエスの姿” かもしれません。そのようなイエス様の姿を心に焼き付けましょう。今の自分は、そんなイエス様の姿と程遠い、とってしまいかもしれませんが、イエスは今日も「私に従いなさい。私に倣いなさい。」と呼びかけています。すぐに思い通りになれなくても、私が愛車の中で繰り返していた祈りのように、イエス様にあこがれ続ければイエス様の心が少こ～しずつ私たちの中に定着します。今の自分がどうこうではなく、イメージを大切に、そのイエス様の姿を心に浸透させて下さい。ちなみに私は「休ませてあげよう」（マタイ 11：28）と語ったイエスの姿に憧れています。今の私が、人に安らぎを与えられるかはわかりませんが、「休ませたい」という“望み”は神様からのもので、その実現のために必要な力を神様が与えてくださるよう願っています。

ペトロは、イエスに「あなたは、神からのメシアです」と信仰を告白しています。私たちは、生涯をかけて、ペトロよりもっと具体的に「あなたのこんなお姿に憧れて倣ってきました」と答えることができるのではないのでしょうか？ それ、イエスへの信仰告白でしょう。

そのために、私が車を断念したように、少し犠牲を払わなくてはならないかもしれませんが、けれども、それくらいで憧れるイエス様に近づけるなら、本望でしょう。時間をかけて、生涯をかけて、憧れるイエス様の姿を高円寺教会の共同体で追い求めましょう。そして、私たちが憧れるイエス様の姿を生きることで“永遠の命”を得ることができるよう、このミサの中で願いましょう。

イエズス会助祭 柴田 潔